

助成事業実施報告書

団体名 特定非営利活動法人 八王子ダルク

代表者・役職名 氏名 代表理事 加藤 隆

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

ダルク版物質使用障害治療プログラムの作成

2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

施設の代表や職員の多くは多摩地区で薬物使用経験があり、当時、多摩地区にダルクが無かった為に苦しんだ経験から、東京ダルクの協力のもと、2011年に東京ダルク八王子(任意団体)を開設し、2015年にNPO法人八王子ダルクとして独立をした。利用実績・平成30年度実利用者数29名・現在登録者数23名

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

平成29年12月15日に閣議決定された再犯防止推進計画に基づいて「誰一人取り残さない」社会の実現に向けて、現在法務省が取り組んでいる。ダルクは依存症者に対しての支援を治療として行っている。今回新たに物質使用障害治療プログラムのモデルを作り、再犯防止への一助となればと考えている。物質使用障害治療プログラムのテキストは現在もあるが、日本での依存症治療についての情報提供が乏しいと感じている。現行で作られた物は2004年に誕生したものを改訂している。感情や依存症者の特徴に焦点を当てる部分を変更し作成することによって、このテキストを使ったユーザーがより社会資源の情報を正確に捉え、なおかつ依存症者への偏見をダルク以外の支援者が見直していくためにも必要であると感じている。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

物質使用障害治療プログラムのテキストをもとに、改訂する部分についての確認を実施していく。その中で新しく取り入れる場所を委員会が中心となって会議を行い、アイデアを出して収集していく。監修者の助言をもとに改定する章、テキストの本文とイラストの確認を行いながら、ダルク利用者(薬物依存症者等)のニーズに寄り添った形のテキスト作成を行っていく。物質使用障害治療プログラムのテキストのデザインを行い、製本印刷を行う。出来上がったテキストを八王子ダルク、川崎ダルクでプログラムとして利用し、なおかつ関係機関にテキストを提供する。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

作成過程においてトライアル版を実施しながら行った結果、司法から繋がる利用者、医療から繋がる利用者など背景が異なる場合でもより薬物依存症からの回復に必要な情報やプロセスをより共感しやすく、また薬物依存症と精神疾患など併存障害を抱える利用者にも理解しやすく他者が支え合う相互支援の作用が高まっている。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

現代において乱用薬物やそれを使用する薬物依存症者は急速に変化し多様化しているのが現状である。そのためにも今回作成したテキストの内容も社会的背景に沿った内容を考えて続けなければならぬと考える。また、テキストを多方面に配布することにより、今まで連携の取れていない支援機関との架け橋になることを期待している。

7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし